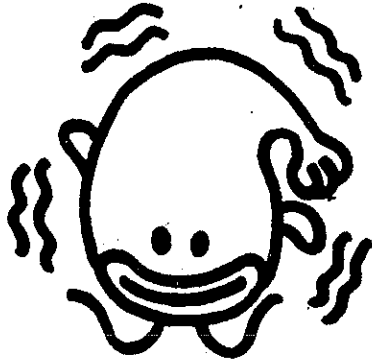


# 衣川台なまず通信

2号



発行 衣川台自主防災部

発行日 2005年11月1日

## 第2回防災訓練

日時 11月5日 午後2時ごろ

**訓練開始**の放送が聞こえたらご家族の一人が**あわてないで**

**グループのリーダー**のところに集まってください。**在宅人数と**

**全員無事**・**出火問題なし**・**被害なし**等々を報告してお  
帰ってください。

今回の訓練の内容は「対策本部の立ち上げ」と「世帯の安否確認」です。  
ご協力よろしくお願いします。

# 防災訓練！高い評価！！

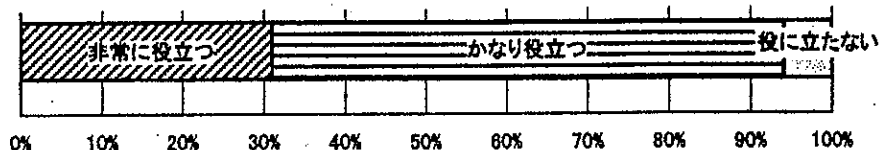
約140人参加

先立って6月26日、大津市北消防署のご協力を得て、衣川台初めての防災訓練が実施されました。約140人の参加があり、予想以上の規模となりました。改めて地震災害への関心の高さを実感しました。

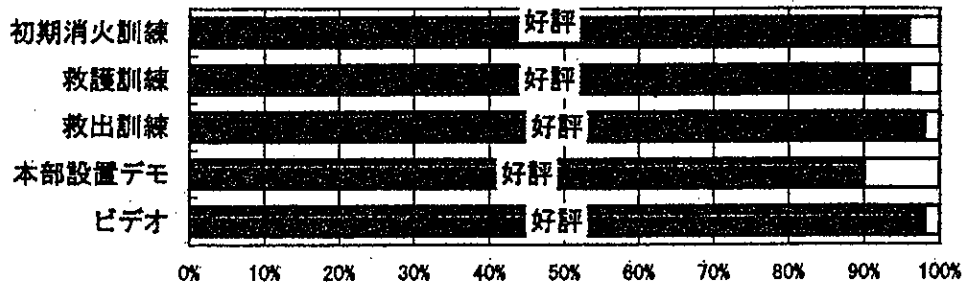
以下に寄せられたアンケートを集約してご紹介します。

[アンケート回収率は53% (配布97世帯回収51世帯) でした]

## ☆ 全体評価



## ☆ 個々の訓練評価



## ☆ 自由意見 (抜粋)

〈良かった点〉

多数の参加・訓練効果

内容の充実と円滑な進行配慮

冷やしぜんざい・ジュース等のサービス

〈改善意見〉

時間設定と配分の工夫

資機材の説明や所在の徹底

## ☆ ☆活動全般についての要望・意見

なまず通信の期待

性急をさけた息長い取組み

若年層への呼びかけ

路上駐車排除努力

☆ 今後課題

防災救急袋等の斡旋

安全確認・本部設置訓練・非難訓練等

個別訓練の実施要望

以上 アンケート回答は自主防災部の活動姿勢に賛同・協調する意見が大半であり、また活動への期待感が強く示されました。役員一同期待に添えるよう努力したいと思います。ぜひ皆様方のご支援・ご協力をおねがいします。

訓練の内容を5組の篠川さんが35分のビデオに編集してくださいました。当日の様子を見たい方は防災部までお申し出下さい。

## 阪神淡路大震災を体験して

9組 増田 篤子

私は、10年前の大震災を体験した者の一人です。幸い私の住んでいた地域は激震部から離れていたのので、建物が壊れたり、家具の下敷きになるような、大きな被害はありませんでした。震度は6程度かと思います。でも、もう少し備えをしていれば、もっと被害を少なくできたでしょうし、今後に生かせる教訓もたくさんありました。湖西地域の地震確率が高いと言われている折、少しでも皆様の参考にして頂ければと、そのときの様子を書かせて頂きます。

当時、私たちは転勤して、尼崎市のマンションの4階に住んでいました。手狭な社宅のこと、私の寝ている真横には、和だんす、整理だんす、本棚、机、が壁のように並び、たんすの上には箱類が天井まで積んでありました。普段から、地震が来たら危ないな、とは思っていたのですが・・・

あの日、突然ガタガタとした振動で目を覚ました私は、本能的にたんすの側から飛びのきました。すぐにドーンと突き上げるような衝撃があり、激しい横揺れが始まりました。立ち上がることなどできず、座ったまま夫と身を寄せ合うばかりです。

薄暗闇の中で、隣室の本棚のガラス扉がちぎれ、中の本がどンドン飛んで落ちるのが分かりました。やっと長い揺れが収まって、まず懐中電灯をとろうと、横の押入れを開けたとたん、上から物がドサッと落ちてきて、どこにあるのかわかりません。

夫は手探りで枕元のめがねを探しますが、これも落ちてきたものがかぶさってなかなか見つからないのです。やっと見つけて、私は玄関の扉を開けに走りました。ところがあわてて、柱に顔をぶつけてしまったのです。玄関には背の高い下駄箱が倒れて出口をふさいでいました。とりあえずガウンをはおり、1階の外へ出たときは、意外にあたりはシーンと静かでした。近所の人たちと無事を確かめ合っているうち、誰かのラジオで、神戸辺りが大変なことになっているのを知りました。そのうちに夜が明けてきて、自宅へ戻ってみると、そこらじゅう足の踏み場もないほど、ものが散乱しています。

食器棚とリビングボードは、ガラス扉が開いて中の食器や飾り物が部屋中に飛び散り、冷蔵庫は前にずれて中のものが飛び出し、電子レンジやトースターは落ちて壊れ、テレビは数本のコードに支えられてかろうじてぶらさがっていました。棚に載せた物は、ことごとく落ち、ピアノも50センチ位ずれていました。でも、引き違い戸の中の食器はほとんど無事でしたし、固定してあった寝室の本棚も大丈夫、また、意外に、壁に吊るした額や時計なども落ちませんでした。すぐに、水道管に残っている水を汲み取りましたが、もちろん断水、停電、ガスは出ません。たびたび来る強い余震に怯えながら、靴と手袋をはいて、割れた物の整理に取り掛かりました。電気はその日のうちに回復しましたが、水は3日ほど出ず、給水車までもらいに行きました。ガスは点検に5、6日かかりましたが、その間カセットコンロが役に立ちました。また、風呂の残り湯は、トイレ流しや、掃除などに重宝でした。次第に被害の物凄さが報道されてくるにつけ、家族や、近所の人たちが、無事であった事が何より有り難く、壊れた物が惜しいという気持ちは不思議にありませんでした。10日ほど経って、西宮に住む友人を見舞いに行きましたが、その時見た沿線の無残な様子は、今も忘れることができません・・・

いつ起こるのか分からない地震に対して、万全の備えをするのは、なかなか難しいことです。もちろん、食料や水などの準備も大切ですが、まず一番は、命を守ること、怪我をしない事でしょう。最低限、寝室を安全にすることが必要と思います。

そういう私達でさえ、まだ家具の固定は完全ではありません。そのうちに、と思いながら、なかなか出来ないものですね。例えば、「防災の日」などを目安にして、まず、家具の転倒防止対策をされることを、ぜひお勧め致します。

## 防災ひとメモ その1

寝ている時間は「人生の3分の1」といわれます。それだけに寝室の安全性を高めれば、それだけ危険回避ができます。

- [1] 寝室には何も置かない。(衣類・履物・懐中電灯は置く)
- [2] 家具を置くなら場所を考え必ず固定しましょう。

6月の訓練後「防災用品そろえました」「家具の固定をしました」の声を聞きます。まず命の安全のため家具の固定をしましょう。お困りの方はご相談ください。

